

911.3  
/ \  
5







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on aged, yellowed paper. The text is partially obscured by a dark, textured binding material on the right side of the page. The visible text includes several lines of cursive script, with some words appearing to be "1000" and "1000".

Blank, aged, yellowed paper with some faint, illegible markings and stains, possibly representing the reverse side of the document or a separate page. There are some small, dark spots and faint lines scattered across the surface.

Dark, textured binding material, possibly leather or cloth, covering the right and bottom edges of the page. The material shows signs of wear, including scuffing and discoloration. A small, light-colored triangular piece of paper is visible in the bottom right corner.







花のよき一葉のいひしむらさき

柿人

と花の風情をいしちのわづらひ

千住 街

ゆきと花のよきと花の風情

全 熊雄

と花のよきと花の風情

全 東作

と花のよきと花の風情

全 紫

と花のよきと花の風情

新庄 真紫

と花のよきと花の風情

采折 正記

と花のよきと花の風情

駿府 真杉

と花のよきと花の風情

甲斐市川 真哉

と花のよきと花の風情

真門

真門

真門

と花のよきと花の風情

全

と花のよきと花の風情

桑名 柴住

と花のよきと花の風情

全 由川

と花のよきと花の風情

全

と花のよきと花の風情

岩城 真酒躬

と花のよきと花の風情

園子

と花のよきと花の風情

梧風

と花のよきと花の風情

万象

と花のよきと花の風情

福岡 春則

と花のよきと花の風情

千住 加鳥

と花のよきと花の風情

千住 熊雄



花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

柿人

と花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

千住 街

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 熊雄

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 東作

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 紫

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

新庄 真紫

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

柔折 正記

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

駿府 真杉

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

甲斐市川 真哉

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

陶松

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

真門

葛上八十七

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 柴住

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

柔名 由川

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 真酒躬

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

岩城 園子

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 梧風

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 万象

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 春則

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 加鳥

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 千住

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 熊雄

花のよき一葉のいづれもさかすまのあはれ

全 東作







花のよさを夜に授けんと地をよきと押し寄す  
服野町 道好

卯花

さきばつ花かうおもむき花の月ひさしれ花の卯の歌  
長嘯子

裏微加花三 卯の月の中かきとて鬼よあぬ地をまつ  
真古屋 真歌

卯の卯花月夜新花あてうらも鳥やゆくとん  
楢成

卯の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
内成

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
肌義

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
諏方 巢垣

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
名古屋 峯高

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
裏微加花二 卯の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
稻丸

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
卯の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
菴丸

巻上八十九

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
真湖

裏微 夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
名古屋 孫彦

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
富津 田鶴丸

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
秋葉 直蔭

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
市川 釣人

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
中野 常道

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
柔折 真咲

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
全 山文

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
青梅 下見

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
布土伎

夏の卯花あてあゆむらん一花はさる枝の細き  
備後







化移して夫々花も旅人のまを移さる地のは花  
桑折 真番貴

卯酉のまをへへり 全 太丸

宵の花移中 全 金美都

河原のまをへへり 全 肩入澄

ての月のまをへへり 全 律守

ま藤の上まをへへり 伏黒 高持

卯酉のまをへへり 小見川 音春

まの卯酉のまをへへり 柿崎 浦住

卯酉のまをへへり 水戸 瀬踏

まの卯酉のまをへへり 全 春道

賞上九十一

卯酉のまをへへり 諏方 松人

一夜のまをへへり 竹ノ浦 呉鷹

卯酉のまをへへり 片倉 歌成

卯酉のまをへへり 式部 川常

卯酉のまをへへり 岡崎 干雄

卯酉のまをへへり 針村 鈴成

卯酉のまをへへり 針村 木の女

卯酉のまをへへり 全 樹守

時鳥

卯酉のまをへへり 西行 人志



東嶽和花三

花也

幹長

人

陰

村

記

魚

家

名

雄

魚

東嶽和花三

當上九十二

真 風

真 門

雪 丸

團 丸

由 列

萬 丸

招 風

万 象

真 鬼

関 垣

磯 名

吉田

東嶽

名 古屋

全

衆 名



中... 肉 成  
 時... 真 進 良  
 一... 村 上 花 人  
 時... 全 嶺 住  
 き... 富 津 千 代 丸  
 有... 市 川 常 道  
 時... 采 折 真 富 貴  
 時... 全 清 音  
 行... 吉 田 捨 魚  
 夏... 吉 田 田 鷹  
 多... 全 真 風

尊上九十三

恨... 諏 方 長 仗  
 時... 上 田 弟 丸  
 時... 其 間 氣 仙 侶  
 行... 駿 府 春 秋 頰  
 時... 佐 倉 直 古  
 時... 當 ヶ 崎 朝 風  
 時... 名 古 屋 水 人  
 時... 目 妙 加 礼 一 弘 器  
 時... 岩 城 廣 樹  
 時... 半 田 伊 達 彦  
 時... 伏 黒 竹 廣



時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
柔折友成

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
謙方量

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
真門

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
群子

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
真歌

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
山脚

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
樹際

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
景山

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
多頼

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
雨藥

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
雨藥

寫上九十四

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
曹九

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
柿人

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
麟馬

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
有竹

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
真進良

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
真呂記

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
村上狩人

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
仙臺福良

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
取上唐磨

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
全央

時る所のこれと多しと云ふ事を得きたまふ  
若駒



これ入るも... 甲府 守口

なるも... 全 真伎名

あつた... 安原 常豊

あつた... 半田 麓

あつた... 全 深人

あつた... 全 富子

あつた... 中瀬 金俊

あつた... 全 賢久

あつた... 桑折 金鷹

あつた... 全 真史

あつた... 二袋 真史

當上九十五

あつた... 佐原 杉盛

あつた... 高子 滝子

あつた... 真長

あつた... 肌美

あつた... 豊田 梅景

あつた... 全 空根

あつた... 吉田 花盛

あつた... 全 真里

あつた... 全 真文

あつた... 諏方 長伎

あつた... 信山田 真道



村松 厚房  
 牧布施 駒人  
 上田 音清  
 氣仙沼 真琴  
 全 清通  
 笠間 仲芳  
 市川 花好  
 岡部 陶松  
 十文字 古

聞時鳥

當上九十六

仲山朝臣  
 福岡 加鳥  
 坂志岡 仲盛  
 真湖  
 雛子  
 柿人  
 碓辺 登志久  
 秋庭塚 子  
 桑折 金文  
 高持  
 諏方 真



為りてあれは... 真杉

何より... 花房

何より... 門業

何より... 頼

何より... 暖丸

何より... 田鶴丸

何より... 暖丸

何より... 政七

何より... 花守

何より... 指成

何より... 内成

管上九十七

何より... 太刀風

何より... 真湖

何より... 年子

何より... 街

何より... 真鳴

何より... 菅人

何より... 半襟

何より... 金文

何より... 竹長

何より... 音成

何より... 真成



竹角 唐

小町 琴富貴

望月 澄方

花 守

樂 成

糸 松

小糸 直路

鉢田 船見

二 豆人

岡崎 真蔭

早苗

寫上九十八

言集 一人

波那細 稻丸

子 孫彦

裏微加花三 大道

子 楯成

小見川 浦住

裏微加花二 群子

草加 早丸

名古屋 真勝

仁熊 真村

桑折 真富

...



お苗を植ふるは元はまの女の子なりて元は植口の水

橋田も夏はまの女の子なりて残がもまの女の子なりて花

残の男が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

あまの女が苗代まの女の子なりてあまの女の子なりてあまの女の子なりて

菅上九十九

柿崎

成

諏方

芳

沼田

恒

千住

悠

下今町

樹

笠間織安改

之

真門

樹

群子

之

名古屋

之

光磨

之

全園

丸

岩城

盛

歌

盛

全

名

富津

人

全

友

全

鶴

全

歌

盛

全

名

富津

全

友

全

鶴

全

水

有

明

駿府

印西

神田

川又

祿津

水

有

明

駿府

印西

神田

川又

有

明



柔折 真富貴

全 真武

全 棚持

鹿教 有村

望月 駒彦

吉原 素顔

青梅 布土伎

真若

松代 全

滑谷 薰

満知

大 江

真杉

深見真端改 真群

固部 松古

菅蒲

秦華久

内成

名古屋 田鶴丸

柔折 山文

真門

柔名 真氏

柔折 真富貴

全 真武

全 棚持

鹿教 有村

望月 駒彦

吉原 素顔

青梅 布土伎

真若

松代 全

滑谷 薰

満知

大 江

真杉

深見真端改 真群

固部 松古

菅蒲

秦華久

内成

名古屋 田鶴丸

柔折 山文

真門

柔名 真氏



裏微

この此標のなれあはまゝにゆくと多し物ぞう

名古屋 田鶴丸

人かよふ山津の松原・多きせし世の常備のきりきり

兼名 真氏

ひかむく月の形れあはまゝあひひとそとそと

一馬

形のはり豊都よりくちあや神あはまひひあはあひ

指成

あまの形よふは常備なすの海の中もさるもそ

磯名

やのよむいばの常備はせぬのきりきり入りてきりきり

秋葉 松代 氏 則

常備あは後かきく家かたぬぬのやの海果の風情神

駿府 水 篤

風を海もか風あはくちあまきり遠くゆく常備州

赤津 真哉

常備あは後かきく家かたぬぬのやの海果の風情神

伏黒 水 哉

常備あは後かきく家かたぬぬのやの海果の風情神

吉原 素元

常備あは後かきく家かたぬぬのやの海果の風情神

菅上(百一) 類

常備あは後かきく家かたぬぬのやの海果の風情神

真杉

目妙如花

佐倉 朝風

目妙

固部 音高

目妙

岩城 服住

目妙

梧風

目妙

姫路 一歩

目妙

味之

目妙

指成

目妙

仙臺 於鬼門

目妙

近道

目妙

水戸 外成



藤のれやまきとて又... 芳野  
 席の底の梅も根... 全 浅  
 青の由の... 山形 沼  
 志程より... 柴折 若  
 子月女の... 佐倉 一  
 後... 服野町 美  
 可... 道 好  
 かな... 針村 珍 馬  
 青... 樹 守  
 加妙の花... 千 穎

當上百三

目妙 鹿教湯 鹿 任  
 目妙 若古屋 橘 五 園  
 中... 熱田 芳 香  
 丁... 全 竹 馬  
 若... 岩城 竹 馬  
 序... 全 長 人  
 方... 山形 真 青  
 庄... 庄内 訓 文  
 松... 松代 秀 雄  
 今... 今井 丘 守



甲府 守口

栗折 金鷹

小見川 鴨

蓮光寺 環

村松 厚志

全 厚記

天神林 真水

片倉 川常

秋保 龜成

若 成

文字成

賞上百四

雨宮 夢成  
岡崎 真水  
小野宮 金厚  
岩城 詠風  
長人

憲

六帖 下

波那細 磯名

松代 秀雄

裏微加花三 真門

名古屋 稻丸



あまのつとを... 柔名 由 刈

赤目... 丸亀 多 頼

いふせ... 村上 沖 風

いふせ... 富津 喜 楽

あまの... 吉原 裳 顔

あまの... 半田 楮 成

あまの... 全 春 則

あまの... 柔折 麓 女

あまの... 鹿教湯 下 見

あまの... 鹿 國

あまの... 鹿 國

葛上百五

あまの... 津嶋 浅 藪

あまの... 名古屋 田 鶴 丸

あまの... 岩城 真 酒 躬

あまの... 全

あまの... 蔭 友

あまの... 音 繁

あまの... 千 穎

あまの... 内 成

あまの... 村上 於 鬼 門

あまの... 富津 嶺 住

あまの... 得 細

あまの... 得 細



あがもをひきかきしりてはひらくはき物とすりの  
庄内 訓 文

運の取はまの辰森御とてあがうかぞはるきか  
松代 水 葛

あいらの掛さびくはるのらんげどあなぬ妹が門の戸  
甲府 守 口

御もどう入れうとよよへん禁とてきよは御ぞりあ  
桑折 御 空

あいらのあせにめいんあしんがはつぬ母のあせがま  
諏方 長 伎

特あいらのいれあせあせとてきよは御ぞりあ  
全 三 恒

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
全 真 咲

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
蓮光寺 真 石

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
環 孫 考

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
孫 考

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
全 孫 考

賞上百六

二人が若聖よかひあせあせとてきよは御ぞりあ  
小糸 喜可寿

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
鉾田 豆 人

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
取野所 斧 人

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
當ヶ崎 道 好

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
針村 水 人

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
樹 守

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
笠間 跡 成

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
桑折 芳 文

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
名古屋 薄 墨

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
岩城 鬼 影

あいらのあせあせあせとてきよは御ぞりあ  
綾 丸



後天に... 山近

... 大道

... 万年青苗

... 花守

... 加鳥

... 惠智人

... 有馬

... 丸人

... 織方

... 常道

... 立守

管上百七

... 江尻 雪斎

... 神田 明

... 半田 花盛

... 桑折 賢久

... 全 薄墨

... 全 見詰

... 鹿教湯 鹿角

... 保原 全

... 青梅 隣

... 芳文

... 諏方 金家



うまの木の葉の... 全 美 樹

... 全 進 石

... 全 真 石

... 天神林 盛

... 三ツ井 千代人

... 一ノ関 折 香

... 鬼石 川 風

... 駿府 系 頼

... 直 古

... 直 垣

... 直 道

寫上八百八

... 佐倉 棚 廣

... 全 益 樽

... 服野町 道 好

... 長崎 真 玉

稀達意

... 定頼卿

... 楮 成

... 安食 稻 城

... 真 門

... 葛 丸

... 真 湖



花也

稲丸

笑磨

石成

全

系成

景山

泻人

金兵

廣伎

琴富貴

鷺上百九

梯はあやふしきまののりきつ命をうきまきものう梯  
名海らふうづらぬをわらわらまをそとす押ひれ  
糸 柁

述懐

世の中はらうふうとあふしんころのなほ恨をうられを  
元方朝臣

波那袖 楮成

東微加花三 青梅 千代丸

抑ふのふれもまのふもまてんゆらるるをどこのま  
諏方 真咲

物ほいよはのぬくあつぬいひつる後のこもみあり  
小町 琴富貴

ゆらねのこれとをどいざひ違はゆへにふれざしほ  
駿府 直古

何れも世をいふこととるれかてんをすれまほび  
新庄 真柴

裏微加花三





桑折御空  
 大御空  
 富津喜樂  
 桑折見詰  
 諏方金家  
 全高根  
 蓮光寺環  
 片倉川常  
 安食柏城  
 姫路空見  
 目妙如花一  
 鳥居上十

桑折 御空  
 富津 喜樂  
 桑折 見詰  
 諏方 金家  
 全 高根  
 蓮光寺 環  
 片倉 川常  
 安食 柏城  
 姫路 空見  
 鳥居上十

村上 鋤也  
 諏方 清水  
 岩城 竹林  
 樹守  
 太田原 景山  
 朱人  
 柿人  
 全  
 千住 街  
 水戸 洲長  
 中野 真咲

村上 鋤也  
 諏方 清水  
 岩城 竹林  
 樹 守  
 太田原 景山  
 朱 人  
 柿 人  
 全  
 千住 街  
 水戸 洲長  
 中野 真咲



却つこの後はおのゝの... 桑折 繁留

何もの物もたの... 青梅 芳文

世を... 諏方 虎丸

耳... 全 菓垣

世の中... 安食 月好

人... 菘蒔 稻城

年... 長崎 月彦

う... 真玉

世... 真頼

よ... 真頼

わ... 真頼

書上百七

鵜河

取... 一條禪問

波... 名古屋 田鶴丸

無... 萬象

無... 仁熊 真村

裏... 望月 駒彦

わ... 四

腹... 真臣

物... 群子

た... 水戸 河浪

そ... 幹長



裏微加花二

裏微

の...  
 曾丸  
 教成  
 長竹  
 行也  
 市川  
 常道  
 大田原  
 景山  
 名古屋  
 稲丸  
 岩城  
 長人  
 大  
 道  
 睦  
 實

尊上百十二

物...  
 量  
 長  
 枝  
 吉原  
 鳴  
 音  
 素  
 顔  
 蒙  
 顔  
 芳  
 文  
 街  
 真  
 地  
 真  
 或  
 人  
 成  
 田  
 鶴  
 丸











目加花一

併けおまじき花も花のりつるの布とひきのあり  
孫彦  
福岡  
芳宜丸

目妙

月よ種まきし種よわきつん種のかより種まのむ  
真門

種が種一種つとあひあはまとうそらに河あ種子  
市川  
陶松

花あきのあまよあんと屋まつしあつとつるれ青種子  
水戸  
宮振

夏の種は花種子のむつと種まふれてあひあつたあつた  
全  
豊

花あおまきし種つと地つを種日土の種子のむ  
富津  
春則

種子の種つとせしときくうに種あつたあつたのこれ  
全  
瀑布

はつらき鳥はと種もなまき種あつたあつたあつた  
全  
喜楽

あつたの種種つとあつたあつたあつたあつたあつた  
楢成

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
真似相

巻上百十五

おあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
睦實

種子の種あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
二本松  
幹長

種子の種あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
縫女

さあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
諏方  
萬象

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
小町  
真篤

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
五臺僧

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
石網

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
米沢  
糸松

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
桑折  
安足

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
全  
御空

種あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
竹廣



まの揚一平流の舟は舟の夢の海をさへまう  
うごける舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
おびれはちこはこもよまおく梅おとのこわあきうれ  
中のおれ為し程もゆきおのむあくる夜よまの移子  
おろし程とまう舟をのむおのむ程の程  
るまの舟と流しぬれあきうまをうまの舟  
の舟とまう舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
鬼百合とあゆ川糸の程は舟の夢をゆきつむん

蛭

花とびつともゆきおのむあくる夜よまの移子  
波那細  
舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの

巻上百十六

片倉 川 常

上田 兼 丸

両宮 夢 成

岡部 鳥 柴

松代 秀 雄

相深見真端政 真 群

小見川 浦 住

岩城 暖 丸

渚玉 作者不知

石 佃

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 友

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 實

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 子

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 成

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 真酒助

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 芳宜丸

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 真里

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 薄墨

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 磯名

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 嶺住

舟を流すは風流うまをう移を夢ありくの  
花 守

裏微加花三

富津

岩城

福岡

吉田

桑折

村上



東嶽如花二

あぢきなきうたあやうおのむらうふまを花ぬき

市川 常道

又あつとほるあははる後上りつ火と人初まうけ

名古屋

物まがらをうをを解けうあはまは若きそれだ

福岡

かまのゆきあをまのよはなつのもをまうれ

山形

あせくと地の国はああやあ珠のゆうよぬらま

群子

吉岡の鞠のまとうふまふまのきり遠江のまあつを

山

ゆまのたあうまうのあはるのまはりのまはうや

真直

月まのたうまをうのあはるまをうまをう

十住街

あうまをうあはるまのまをうあはるまをう

青梅

まをうまをうのあはるまをうまをう

名古屋

あつたのまをうまをうまをうまをう

箱丸

まをうまをうまをうまをうまをう

仙臺

山形

まをうまをうまをうまをうまをう

漏留

まをうまをうまをうまをうまをう

千嘉雄

まをうまをうまをうまをうまをう

石室

まをうまをうまをうまをうまをう

磯名

まをうまをうまをうまをうまをう

福岡

まをうまをうまをうまをうまをう

加鳥

まをうまをうまをうまをうまをう

升成

まをうまをうまをうまをうまをう

吉田

まをうまをうまをうまをうまをう

真文

まをうまをうまをうまをうまをう

全

まをうまをうまをうまをうまをう

謙方

まをうまをうまをうまをうまをう

竹ヶ岡

道 規 恒 風 文 成 鳥 名 室 雄 留 成 丸 丸 成 直 逆 鳥 磨 道

篤上百十七



陽馬のどとまゝの... 奥中 金 俊

... 采河 山 文

... 全 金 元

... 全 鹿 文

... 鹿 鹿 文

... 斤倉 川 常

... 岡部 吉 雄

... 山形 真 青

... 名古屋 弘 岩

... 三條 弘 岩

... 水戸 外 也

賞上百十八

千金の... 安 稻 城

... 日妙 真 門

... 花 成

... 真 久

... 楮 成

... 千住 夏 好

... 美津保

... 若神子 楮 成

... 磯辺 真 嶋

... 登 志 久

... 真 湖



亦沼  
 新庄  
 水戸  
 長門  
 周防  
 狹  
 郡  
 藏  
 針村  
 満  
 萬

歌  
 杉  
 春  
 節  
 山  
 兎  
 成  
 主  
 守  
 沙  
 象

寫上百九

山  
 系  
 村  
 上  
 嶺  
 大  
 糸  
 方  
 清  
 竹  
 角  
 歌  
 小  
 糸  
 喜  
 全  
 直  
 全  
 菊  
 小  
 町  
 琴  
 富  
 貴

入  
 頼  
 住  
 枝  
 女  
 水  
 成  
 壽  
 路  
 盛  
 貴



古歌のちりやふまきくもの矢のよれきもまの佐物 柿崎 音成

聖原のちの流ゆる代えありへのくはるゝあゝ 花 守

あつさうよあて姉があさるゝはいつのうまそ 鳴 音

十の鳥をたかざらまの鳥影をさへひたし 真 槌

まきの方まきの後の世うそ神よ世をさうたの 柔折 真富貴

あつさのうたひあつぬ物あつる屋をあつて 半田 麓

あつしをたれてまき 奥田村 其吟

まきまきのえのけくま 柔折 山文

まきまきのあつたまき 全 賢久

まきまきのあつたまき 全 金文

まきまきのあつたまき 全 律守

鶴上百三

あつたまきのあつたまき 伏黒 音春

あつたまきのあつたまき 村松 厚房

あつたまきのあつたまき 牧布施 大江

あつたまきのあつたまき 三ツ井 十代人

あつたまきのあつたまき 天神林 曾丸

あつたまきのあつたまき 青梅 千垣

あつたまきのあつたまき 桑名 布土伎

あつたまきのあつたまき 松代 由刈

あつたまきのあつたまき 浪花 秀雄

あつたまきのあつたまき 粟 三

蚊遣火



夕べの残が夕暮の故をうらやみき程をまよふ  
二言集 作者不知

波那畑 堂の中は草うらやみしりも多き程をまよふ  
楯 成

裏微如花三 夕暮の紙帳の富をしのごまぬ桐とある夕火  
於鬼門

宵くよのゆめ故をハ布主人は抱えられしと我ありき  
糸 頼

俣まづまづしき花のまき火は燈えもくもをまびりん  
諏方 金 家

若ともゆりて程う 花のまき火は燈えもくもをまびりん  
升 成

油林鳥をひきまて枝のまき火は燈えもくもをまびりん  
千住 街

裏微如花二 池のまき火は燈えもくもをまびりん  
仙臺 真根人

多しをぬるまき火は燈えもくもをまびりん  
諷方 蔭 友

あつた秋はまき火は燈えもくもをまびりん  
駿府 高 根

燈をまよふの程をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
直 古

萬上百廿一

ゆめをまよふ程をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
長崎 真 砂

裏微 池のまき火は燈えもくもをまびりん  
群 子

夕暮の残が夕暮の故をうらやみき程をまよふ  
山 近

市人の門の燈をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
楯 成

ゆめをまよふ程をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
高畑 芥 人

夕暮の紙帳の富をしのごまぬ桐とある夕火  
水戸 歌 沙 丸

芥のまき火は燈えもくもをまびりん  
全 珍 馬

若ともゆりて程う 花のまき火は燈えもくもをまびりん  
岩城 春 江

初をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
長 人

人々の故をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
楯 成

燈をまよふの程をまよふまき火は燈えもくもをまびりん  
幹 長



好まぬは様替えん國栖への好の烟也春のふを

吉田 麟馬

とつくと烟の中はまのん中好まぬは中よ光る稲葉

真風

まのうは好まぬのふつと種はあれとせよる好風於

石網

柳むど好まぬはまの好まぬは風よまのわぬわり

鹿教湯 花守

夕餉とくせき中子好まぬの烟とせよ這か子泣る

鹿教湯 掉鹿

月ハとせ好まぬは途もとらる好はふりたをこ好ふ

吉原 棠顔

岸と好まぬはけを烟と風は流れてたんとあは

桑名 真民

夕暮ハ月と中のおのふ暮の舟も好まぬはうと好

會津 安則

こころは好まぬの烟はわあまの青く好まぬはこころ

長崎 真玉

好まぬはあかぐさ好まぬは村まよ月のかつて風はかり

楢 成

まともかたの烟のこころは好まぬはまよまの夕暮

三婦美

尊上 百廿二

ふまのく医師が好まぬは好の煙子の烟もえ

十住 街

夕暮のこころは好まぬは花のふあは街が好む

甲府 楢成

楓火の中は好むはこころは好まぬは好まぬは

名古屋 真仮名

好まぬはまの好まぬは好まぬは好まぬは

水戸 楢丸

好まぬは推のまもあつて好まぬは好まぬは

岩城 春道

好まぬは好まぬの煙のまもあつて好まぬは

越中今右助 真酒躬

好まぬは好まぬは好まぬは好まぬは

安原 諦研

好まぬは好まぬは好まぬは好まぬは

周防 常豊

好まぬは好まぬは好まぬは好まぬは

笠間 泉

好まぬは好まぬは好まぬは好まぬは

武雄

好まぬは好まぬは好まぬは好まぬは

真名文







夏の秋はきりきりくまむ月と影初うや一庵とをそと  
夫木集 右衛門佐

成那細 夏のでとる月影はえとれ七六あつうぬ影のまを掃くは  
甲府 真佐名

裏微如花三 夏より雲と影をきき月影のまを掃くは  
真門

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
岩城 真酒躬

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
磯名

似き日影を掃くは月影のまを掃くは  
真湖

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
真歌

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
黒堀

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
熊雄

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
花也

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
真直

尊正百廿四

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
駿府 真金

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
仁熊 真村

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
名古屋 真磨

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
最上 由多賀

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
青谷 白人

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
長門 大道

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
萬象

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
真湖

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
梅景

あつうれ地は掃くと夏の影は月影のまを掃くは  
琴富貴



安の糸まうく夏の秋と秋うりまき月のわりのぬ  
佐倉 美種

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
糸 松

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
梁折 真杉

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
岡部 下見

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
水戸 道古

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
蓮光寺 丸寐

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
大坂 環

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
岩城 栗三

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
千住 真露

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
熊雄

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
市川 陶松

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
仁熊 真村

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
名古屋 田鶴丸

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
新庄 真柴

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
水戸 釣人

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
岩城 真庫

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
村上 真進良

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
大坂 於鬼門

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
福岡 春記

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ  
加鳥

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ

あつぐわいふなれぬ月の水もゆらぐまを秋その時さ



暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
村上 鋤 成

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
吉田 梧 風

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
吉田 元 衣

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
諏方 真 石

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
柿崎 瀬 踏

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
柔折 糸 頼

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
下今町 清 音

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
川俣 有 樹

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
岡部 中 任

暮のねた寝つき梅を吹拂ふ月を夢に思ふをあり  
沢柳 素 直

曾上百廿六

夕のまれば秋よあそびの像よ涼し暮のねた月  
全 祐 之

夕のまれば秋よあそびの像よ涼し暮のねた月  
詠 風

納涼

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
俊 成 卿

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
針村 樹 守

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
真 久

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
青梅 喜代 住

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
吉田 真 文

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
仙臺 真根 人

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
柔折 見 詰

月を涼し湯舟の湯ふりよ月に入平たぬこづけて  
大坂 春 記



裏微加在二

若柴行より一木のまきより深く平のまきより守り

山形

若柴

月の下まのまきと燈入のまきの中をまき夕丸

磯名

若柴の掃きかきと夕丸の掃きかきとわきまき

天神林

保鳥

日のひかりのまきをまきと月をまきと

安食

稲城

裏微

月をまきと夕丸をまきと掃きかきと

真門

おれぬ板の風を掃きかきと夕丸のまきと

園子

まきの月をまきと汗をかきかきと掃きかきと

千住

武光

掃きかきと夕丸のまきと掃きかきと

全

東作

夕丸をまきと掃きかきと掃きかきと

名古屋

熊雄

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

真

可

夕丸をまきと掃きかきと掃きかきと

菅上百七

嗣築

夕丸をまきと掃きかきと掃きかきと

針村

樹守

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

吉田

磯名

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

諏方

元衣

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

榑崎

長伎

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

鳴

音

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

桑折

真槌

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

全

支成

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

岡部

御空

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

味

柴

掃きかきと夕丸をまきと掃きかきと

味

之



目妙如花一  
長崎の柳の枝をよむとあつらひかたなるもの

長崎 真砂

葉のよきものむらさき 柳をよむとあつらひかたなるもの

笠間 葉成

夕風は火のつらき花をよむとあつらひかたなるもの

諏方 柿入

今朝の尾の種も月影の影をよむとあつらひかたなるもの

潮来 高根

柳の梢をよむとあつらひかたなるもの

小糸 葎秋

今までのほろあつらひかたなるもの

柔折 直路

瞞押や角力もよむとあつらひかたなるもの

全 金鷹

あつらひかたなるもの

全 賢久

夕まはりの柳をよむとあつらひかたなるもの

干潟 三鳥

あつらひかたなるもの

目妙 柳成

あつらひかたなるもの

池住

あつらひかたなるもの

雪丸

あつらひかたなるもの

名古屋 全 門業

あつらひかたなるもの

仙臺 真根人

あつらひかたなるもの

全 近道

あつらひかたなるもの

高畑 登栄

寛政百廿八



岩城 真酒 躬  
 周防 山 際  
 笠間 色 好  
 全 武 雄  
 長門 三千丈  
 全 物 成  
 村上 槌 持  
 網 頼  
 跡 人  
 蔵 主  
 麟 馬  
 寫上 百九

此の調子 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春  
 吉田 全 真 風  
 佐倉 美 種  
 柿崎 喜 磨  
 桑折 顔 看  
 全 下 見  
 村松 厚 記  
 全 厚 志  
 鹿教 鹿 住  
 天神林 真 水  
 菽 蔭 月 彦



望月 澄方

秋田塚

岡部 長人

小見 浦住

孫 彦

荒和後

入道前大政大臣

四

市川 常道

仙臺 真根人

鴨上三十三

吉原 裳顔

山 近

千住 熊雄

名古屋 楯成

岩城 秀真

企 道春

青谷 白人

大坂 金糖

企 春記

花の枝ぬき

小堀の

火と金の

書翰花

これらの

ついで

赤丸の

麻の

四種

おま

品科



石 綱  
菽 蔭  
吉原 陀 房  
青梅 素 顔  
芳 文

意

小 町  
真 門  
磯 名  
真 杉  
外 也  
真 弓  
當上匠王

柿 人  
笠 間 仲 芳  
諏 方 橋 人  
真 杉  
水 哉  
水 篤  
景 山  
暗 記  
松 人  
芳 野 方



庄内 吾丸  
 楯成  
 全 真進良  
 大 大道  
 関 垣  
 梧 風  
 諷方 量  
 白川 折鶴  
 小町 謙  
 綴安  
 鶯上百三十二

駿府 直古  
 松代 倭歌枝  
 全 群鶴  
 目妙如花一 関垣  
 目妙 真白  
 真直  
 駿府 敷成  
 甲府 真金  
 大田原 守口  
 名古屋 景山  
 園丸



庄内

かきつりあやうのあまのり甲斐のあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

鶴上百三十二

吾丸

楯成

全

真進良

大道

関垣

梧風

量

折鶴

讓

綴安

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

あまのりあやうのあまのりあまのりあまのり

駿府 直古

松代 倭歌枝

全 群鶴

目妙如花 関垣

目妙 真白

真直

駿府 教成

甲府 真金

大田原 守口

名古屋 景山

園丸



千垣

全

真根人

仙臺

重美

新庄

粟阿弥

水戸

洲長

全

吾丸

庄内

一馬

笠間

芳文

全

菓成

鴛上三十三

文字成

朝起

真湖

諏方

美樹

白川

折鶴

潮来

廣洲

全

葭秋

佐倉

琴月

菱田

音芳

気仙沼

清通

采折

正記

千垣



望月 真駒

中野 真咲

青梅 喜代住

采名 由川

小見川 音連

全 昂

旅

重之朝臣

諏方 菜垣

水戸 栗阿弥

祢津 水哉

賞上百五

防山口 石成

跡人 花守

瀨谷 真柄

吉原 素顔

安食 稻城

防山口 石成

目妙 花一 鉦田 豆人

真門

長竹 行也

知



乃のまをえりて後ハ世にびやめません家もあまの  
相勝 文垣

海をたは渡る年をいふまをふねをぬきよの海内のみ  
幹 長

うね移のまをむきよのまをたぬくまを人鬼ハ形  
梁折 終 安

夏風ハ二河の流れを入れて一樹のまが汗をとり  
青梅 下 見

白のまをむきよのまをいふまのまをいふまをいふま  
桑名 布土 伎

旅日ハ形ハうねのまをいふまをいふまのまをいふま  
松代 笑 磨

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
真 神

獸

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
正 徹

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
波那 細 捐 成

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
裏飯 加花 三 名古屋 稻 札

萬上五百五

人のまをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
仙臺 唐 磨 捐 成

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
庄内 出 羽 住

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
長崎 真 玉

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
大坂 指 成

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
市川 春 記

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
真 湖

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
石 網

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
花 守

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま  
糸 松

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま

まをいふまのまをいふまのまをいふまのまをいふま



上田 兼丸

吉原 素顔

中野 真咲

駿府 直道

祿津 水哉

仙臺 真根人

水戸 雜栖

花守

片倉 常

安食 稻城

真類

當上直下

海路

波那細櫻迎愛

大門

波那細 全

裏被如花三 大道

裏被如花二 駒人

裏被 連留

水戸 栄

白川 真直

全 長成

酒盛

名古屋 香久美



厚山 丸

松本新田 宜

栗折 薄 墨

全 全 眉 澄

山 文

高田 岐 岨 住

長 橋

小泉 梧 風

真 砂

照 道

米 貞

卷五三十一

村松 厚 糸

片倉 川 常

庄内 友 成

鳴 音

草加 幹 長

早 丸

富津 千代 丸

股野 上 澄

仙臺 唐 磨

白川 長 成

犬山 松 丸

海

目録



新庄 津 十字街 真柴 雪 守

長門 淡

新庄 真柴

川袋 十字街

白川 芳志

全 春彦

市川 酒盛

三崎 真河

若城 全 若風

岩城 全 暖北

著五三十二

若山 愛丸

坂阜 一二山人

全 馱山人

川崎 鳳管

松本新田 飯丸

伊達崎 於左丸

半田 真富貴

駿府 猶香

伏柳 真影

若古屋 楳風 條



長成 益  
 吉田 寄 浪  
 白川 真名鶴  
 松代 保 明  
 駿府 直 道  
 千住 里 元  
 全 街  
 全 文 入  
 仙臺 真根人  
 村松 厚 丸  
 三ツ井 千代人  
 千代入

著五三三三

氣山昭 清 通  
 千住 東 山  
 諏方 真 石  
 鳴 音  
 安原 常 豊  
 跡 入  
 鬼 笑  
 山 近  
 大 門  
 富津 為 人  
 全 瀑 布







核人の島が... 真根人

よき... 清通

核... 素顔

岩... 杉盛

空寐

大門

真湖

久兒

茂成

大江

常磨

著五三十五

高畑 歌沙丸

伊勢宇治 真平

津 十字街

水戸 音人

仙臺 唐磨

三浦 壁面

岩城 方慈

真酒躬

駿山人

桑折 見詰



まじりぬらむお根と越年れがらわゆる在の明へと 大田原 比盛  
 まねたふまゐりてその傳ふをたのび今も旅むつじ 山形 松年  
 ゆく旅のうきもたぐされは清信ひ海よりし死をあらがふ 白川 宿成  
 岩引お社むつれせしものもつれぬやうおむを若き 与板 秋風  
 足福のちとせられたる牛の杖御ふはけの列くよ橋つ 全 守方  
 昔かゝる旅のつれれ初もあひまゐりぬらきとせまれ 全 祝  
 長野くもあひまゐり旅をたのび清き夏の夜を 前橋 吞芳  
 あゝあゝ旅のせむりを求めんとららばはのあ川の宿 麻生 暗記  
 抑れる運まりはよお月のこととあふ夏の旅人 名古屋 歌志久  
 けちありを中へつらあまのつらひは清いともあまの旅 真 辛喜  
 勝花冠のまゝもよあそびてあまの夜をまよふ 辰 辰

藩五三六

如女の引とあやうり旅をせられたらあまのま 全 真和  
 降つとも数日のあまの宿とてまをせあまの早あけたり 全 鬼影  
 家宿お寺といふところいふまゝに旅をせむる目か 松代 秀雄  
 ともまゝわすれ井をわらひらるる鞠子泊の宿の早札 十住 街  
 伊勢をまゝたふれ里をせむひふあしくこれのむね 野沢 都守  
 せの針の糸とあまの指の糸とまゝあまの宿 新泻 福  
 日暮も静かに旅をせむるあまの宿をたのび 高畑 筆  
 旅の 牧布施 真  
 まあまの宿をせむるあまの宿をたのび 庄内 為成  
 はくまの宿をせむるあまの宿をたのび 糸 頼  
 牡丹のあまの宿をせむるあまの宿をたのび 米 守



契してのどくを落るのあまうし備ん強のま智 氣仙沼 真

悲かやうとましく別日まの野井深と八好か岩片先 草如 兼

うまわぬのまうらむふあつりてしんしとふんびん 房滑谷 満

前生の程のむ強のぬかぬかふあ井へのあふ旅うま 望月 駒

たのどくあつらふ思ふあふとと振とりうる旅あうね 目 積彦

別

裏微如花三 松本新田 宜

あてぬく人まをあつ川中流せう一あの程橋 山形 空

裏微如花二 別段六種の海のあふ又ふあをてまびくうる 山形 若

裏微 旅まのあまあふらあ柳の揚枝わくあま 市川 花也

まねくうまあふまのあふあふととくそありの 市川 真河

著五三七

まらまも別日射のしるまののまねけあれが 大田原 友成

ままのむむおあひあしとま燈籠をまあわけ 桑折 脚

別段ふまのまをせあふらとこれぬね解ふ 小泉 真砂

日知えをれとうのあ首達ふあぬやれあ 庄内 吾丸

まねむけあああああああ 神奈川 漣

あまあふあを運れは板橋をかれて圓え 三浦 若根

目如花一 名あああああああ 諏方 真石

目如 何ぞあああああ 黒羽 真直

ま別あああああ 駿府 繫樹

別段あああああ 山形 若彦

まのあああああ 山形 紫



吉田 正樹  
 駿府 直古  
 千住 街  
 新泻 音道  
 全 濱  
 真壽  
 岩住 澄  
 服野町 上  
 松本新田 勝人  
 祢津 水哉  
 千住 美豆保  
 旅人

著五三十八

山家

裏微加花三

長門 南山  
 白川 数成  
 山形 関根  
 安原 玉繁  
 花也  
 作成  
 今石動 有海  
 水戸 翠  
 岩城 暖丸  
 岐阜 一二山人  
 世人のがれと人なれば果あなはとてあきし山原の形



妻の目ざすり四門の門はよむり其の山は下居 全 駄山人

孝の目ざすり行られぬあまげりきほふの巻 全 林

山宿のあれとくぬむさふあまの目ざすり世のむさふあまの目ざすり 二本松 縫女

世後のあまの目ざすり後世のあまの目ざすり 山形 松年

山残が影のあまの目ざすり 三浦 河頭成

世のあまの目ざすり 甲府 直樹

栗柿のあまの目ざすり 名古屋 真辰

松戸のあまの目ざすり 笠間 仲芳

後のあまの目ざすり 白川 其葉

山宿のあまの目ざすり 松代 秀雄

あまの目ざすり 片倉 川常

著五三十九

あまの目ざすり 三ツ井 若水

あまの目ざすり 諏方 柿人

あまの目ざすり 量 綾主

あまの目ざすり 諏方 肌義

あまの目ざすり 佐原 糸松

あまの目ざすり 安原 杉盛

あまの目ざすり 常 豊

あまの目ざすり 跡 人

あまの目ざすり 豊 秋

あまの目ざすり 野 成

目如如花



其のいふまゝに主ぬおもひのいふすむとあふりしりる者  
川 常

かきまゝに世のふれしはれは人のいふはるまじ  
久喜 美那登

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
今不動 有海

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
神田 明

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
白川 真直

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
打准

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
岩城 春彦

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
川崎 暖丸

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
桑折 鳳管

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
全 真武

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
津守

著五十四

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
宇都宮 為持

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
大田原 比盛

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
白川 宿成

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
山形 全

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
若柴

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
全 玉繁

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
全 千嘉雄

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
鹿教場 茂里

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
格角

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
吉田 真風

あふりしりるおもひはれは人のいふはるまじ  
真文















多まよりいれ時ハ残る家のいぢがふ十住里元

英さかゝる稲葉のまゝに揚るあふさひ全山

指廻しよまふとふふふふふふふふふふ全東

多とてあつたあつたあつたあつたあつた村松厚房

まの田とていふふふふふふふふふふ式部房得

芥とて門田と稲と桂のまゝにふふふふふ諫方叶

田と細ふふふふふふふふふふふふふ諫方真石

稲うらゝ残るふふふふふふふふふふ十住系頼

残るあつたあつたあつたあつたあつた十住千枝

草のよふふふふふふふふふふふふふ長門淡雪

田と肥とていふふふふふふふふふふ草如直丸

普五十四

稲むらふ式も他はさうもて律ふあつたあつた真壽

あつたあつたあつたあつたあつたあつた實丸

あつたあつたあつたあつたあつたあつた花守

あつたあつたあつたあつたあつたあつた真浦

稲の穂はほのかあつたあつたあつたあつた真依

懐舊

裏做如花三花也

たつたあつたあつたあつたあつたあつた佐原八重垣

あつたあつたあつたあつたあつたあつた石桐

あつたあつたあつたあつたあつたあつた真平

あつたあつたあつたあつたあつたあつた跡人



裏微 若く月のもさるは今年月日せしりれは子一ととまを  
真柴

水戸 翠  
全 翠

仙臺 棟  
仙臺 棟 成

三浦 千  
三浦 千 條

名古屋 安  
名古屋 安 記

三崎 弘  
三崎 弘 器

岩城 芳  
岩城 芳 風

真酒躬  
真酒躬

赤沼 全  
赤沼 全

三浦 歌  
三浦 歌 好

著五四五

桑折 半  
桑折 半

白川 真  
白川 真 武

与板 宿  
与板 宿 成

田府 秋  
田府 秋 風

名古屋 久  
名古屋 久 磨

駿府 真  
駿府 真 辰

狐ヶ崎 直  
狐ヶ崎 直 古

名古屋 真  
名古屋 真 直

高畑 真  
高畑 真 歌

式部 真  
式部 真 名 富  
干 雄



たしあはれ歌不あまるときのあはれ歌かあか今ふあはれ歌  
佐原 萬象

月あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
八重垣

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
花守

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
全 芳野

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
大田原 芳丸

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
青梅 支成

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
破阜 真丸

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
松本新田 魁

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
塚原 陰廣

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
席代田 金益

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
長益廣

著五四十六

梅干のこふ歌のよのよの歌はあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
大田原 奉成

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
白川 約守

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
山形 宿成

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
全 志良部

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
三浦 枝折

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
三崎 若根

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
麻生 盛益

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
松代 壽久道

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
水戸 春道

あはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌とてあはれ歌  
千住 米貞



乙女の中はとて多しは坊の夜を移すはのり  
甲府 街  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
柿崎 寐 寛  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
米沢 音 成  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
高畑 千代 経  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
千住 真名 富  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
小町 琴 富 貴  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
房大里 全 惠 顔  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
全 磨 河 園  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
全 著五四十七

乙女の中はとて多しは坊の夜を移すはのり  
富津 山 近  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
全 直 蔭  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
全 目 積

夢

乙女の中はとて多しは坊の夜を移すはのり  
最上 石 綱  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
駿府 直 古  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
高畑 水 哉  
 乙の身存をせしはとて多しは坊の夜を移すはのり  
高畑 歌 沙 丸



朱人 桑折 見 詰  
 藤塚 子 龜  
 天神林 保 鳥  
 庄内 長 房  
 桑折 薄 墨  
 跡 人  
 山形 柴  
 名古屋 和  
 式部 伏 種  
 天神林 水  
 真 水

書五四十八

裏微

塚原 益  
 桑折 金  
 保原 吹 成  
 大田原 隣  
 川又 景 山  
 山形 蝨 丸  
 与板 千 積  
 望月 守 方  
 澄 方  
 系 証  
 狸塚 高 成  
 狐ヶ崎 真 直  
 紙念忌



萬千の回もかゝるゝとて... 二井田 龜 住

後... 八幡 曾代人

... 庄内 出羽住

... 全

... 材人

... 肌義

... 百人

... 目積

... 空寐

... 花守

... 年子

普五甲九

... 芳野 写人

目奴如花二 仙臺 擢人

目奴二 駿府 駒彦

... 諫方 高根

目奴 高畑 沙汰丸

... 白川 春彦

... 菟蒔 教成

... 松本新田 月彦

... 柴折 津守

... 宇都宮 太記

...



九合まきの母のしんがら富士はまてて文合の住ひ酒す 山形 松年

都小あひひのしんがら教はりて後々様とのま 費川 約守

輝るの幸もえりぬ十八のらふまひのまを焼き 駿府 雪峰

車路へ入らうとらふまをて花下まの鶴うめく時 京上 葛春

うらまのまのあまのまのまのまのまのまのま 全 中央

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 全 豊秋

赤物とあひ様もあきれあふまをてまのまのま 名古屋 真勝

摸のまのまのまのまのまのまのまのまのま 吉田 真文

打たのほく様のりし夕べのまのまのまのまのま 仙臺 全 奥住

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 全 好成

著五五十

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 下中条 右成

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 駿府 袖人

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 水戸 直道

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 千住 洲長

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 甲府 美豆保

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 八幡 曾代人

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 叶 曾代人

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 角 住

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 美都井 住

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま 長門 雪



晴くしとて一葉をばあつたせがかりの松をまきし  
光貞

長股の松をまきしとてまきしとてまきしとて大坂の夏  
真壽

松のつぼみはさかすまきしとてまきしとてまきしとて  
關垣

月のよめく葉の海とて井はりしものぞくまの松の松  
浅方

無常

波那細 廿中かたをたれにむねづしうしうぬ人をさうまき  
大門

裏微如花三 ころもぬせのころもぬせのころもぬせのころもぬせ  
厚房

裏微如花二 ころもぬせのころもぬせのころもぬせのころもぬせ  
宿成

裏微 ころもぬせのころもぬせのころもぬせのころもぬせ  
真河

ころもぬせのころもぬせのころもぬせのころもぬせ  
魁

ころもぬせのころもぬせのころもぬせのころもぬせ  
人

普五五十一

あふぶよとあふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
秋風

松もくもくあふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
大門

松人よふふあふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
街

松のあふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
百人

松のあふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
關垣

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
厚房

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
祝

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
跡人

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
澄

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
作

あふぶよのあふぶよのあふぶよのあふぶよ  
南山







吉田 真文

仙臺 大園

白川 折鶴

松代 美酒

駿府 直古

名古屋 真歌

八平改 照道

千住 兼増

全 東作

糸頼

肌義

普五五十三

鳴音

光貞

真壽

石綱

洒落齋

篤躬

花守

得廻

千代丸

芳野 玉響

三崎 芳風

目妙如花一



水戸 春道  
 甲府 寐覚  
 野沢 歌屑  
 天神林 曾丸  
 長竹 行也  
 神田 明也  
 川袋 芳志  
 三浦 馬伎  
 三崎 芳伎  
 岩城 芳風  
 桑折 年永  
 薄墨

著五五十四

桑折 山文  
 全 友成  
 駿府 頼方  
 白川 宿成  
 駿府 森近  
 朱人  
 兼上 若駒  
 全 豊秋  
 麻生 入升  
 水戸 友雄  
 各古屋 琴彦



吉田 真文

真直

魁 莖間

愛 仙基

折 白川

電 野辺

直 駿府

真 石古屋

外 水戸

元 七黒

艶 十住

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

書五十五

湖 近

天神林 盛

松廼宿

茂成

長房 庄内

成 荅

守 今井

量 諏方

根 高

垣 関

貞 光

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or note.







あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
付ヶ岡 道規

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
名古屋 秋津

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
吉田 真文

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
駿府 真直

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
福養

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
千住 米貞

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
全 東作

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
松廼宿

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
庄内 元季

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
糸頼

五五五七七

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
諺方 楠雪

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
長門 淡雪

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
奥成

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
千住 里元

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
萬象

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
小町 琴富貴

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
吉原 素顔

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
千住 千枝

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
花也

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
長竹 行也

あつたはるまきしと推しびるまきし後と推しびるまきし  
久喜 美那登







山近

吉原

裳顔

関垣

光貞

奥成

雄富

佐原

八重垣

富津

為人

小

河

真

顔

俳諧歌著到百首卷之五終

文政五十年

著五五十九



時身

道滿

稀達定





